

農作物病害虫発生現況情報（7月） 水稻編

1 いもち病（葉いもち）

(1) 7月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率（発病葉率0.2%以上）は4.1%（平年3.2%）であり、平年並だった（図1）。

(2) 地域別では、一関、東磐井で発生圃場率が平年より高かった（図2）。

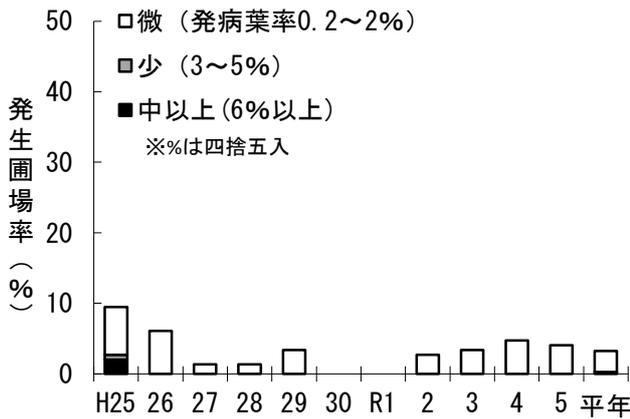


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移（7月下旬）

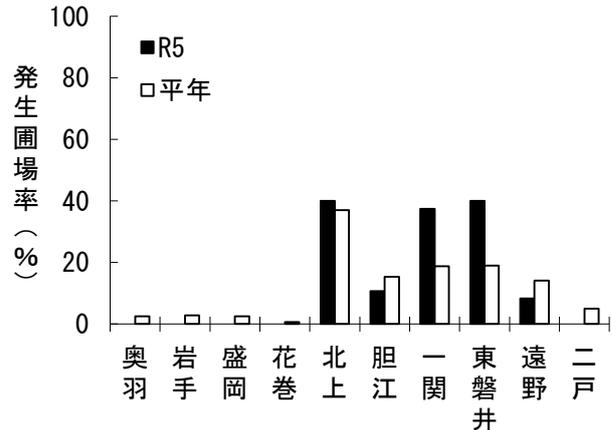


図2 地域別の葉いもち発生圃場率（7月下旬）

※ 発生程度微（発病葉率0.2%）未満を含む。

2 紋枯病

(1) 7月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は12.8%（平年18.8%）であり、平年よりやや低かった（図3）。

3 ばか苗病

(1) 7月上旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は6.1%（平年8.2%）であり、平年よりやや低かった（図4）。

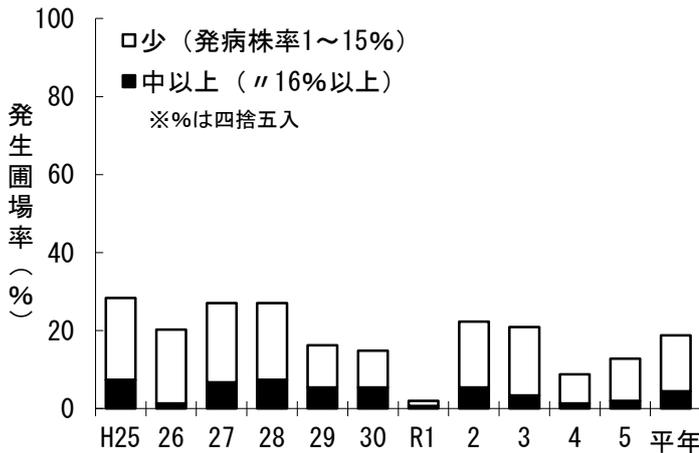


図3 紋枯病発生圃場率の年次推移（7月下旬）

※ 病斑が第4葉鞘以下の発病を含む。

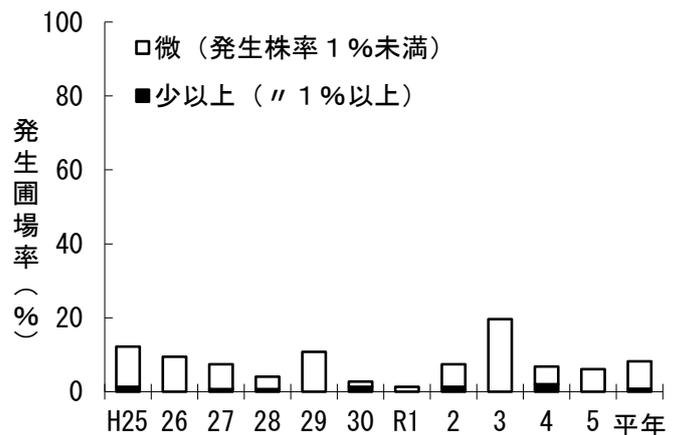


図4 ばか苗病発生圃場率の年次推移（7月上旬）

4 ごま葉枯病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（データ省略）。

5 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）では、7月第3半旬と第6半旬にカスミカメムシ類幼虫のすくい取り頭数が多かった（図5）。
- (2) 7月下旬の水田畦畔におけるすくい取り調査（74圃場）では、発生圃場率は67.6%（平年48.9%）で平年より高かったが、1地点当たりのすくい取り頭数は5.3頭（平年9.0頭）であり、平年より少なかった（図6）。
- (3) 特に、イネ科雑草が出穂している畦畔では、アカスジカスミカメ成虫がすくい取られている。

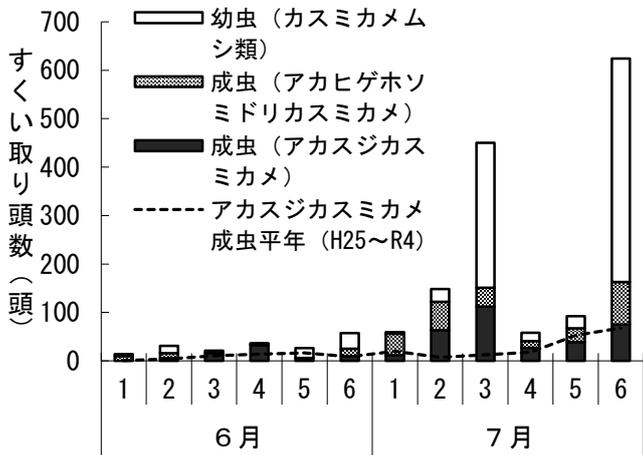


図5 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるカスミカメムシ類の発生推移（7月第6半旬現在、往復20回振）

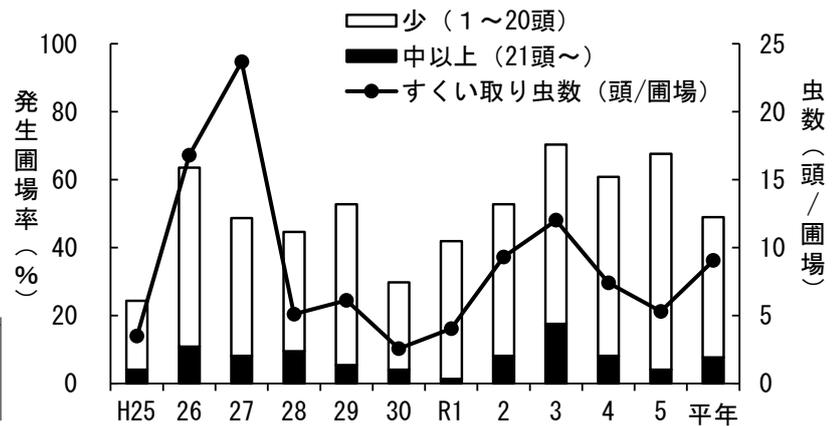
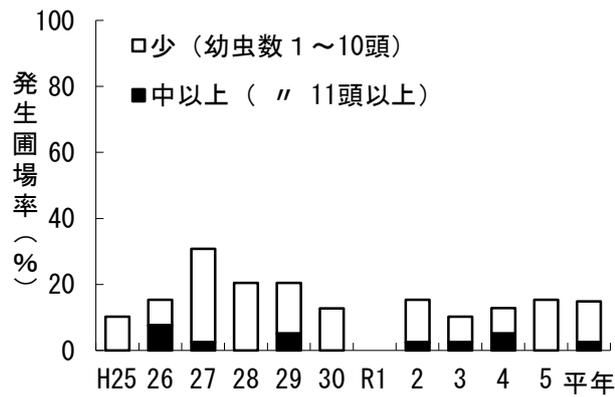


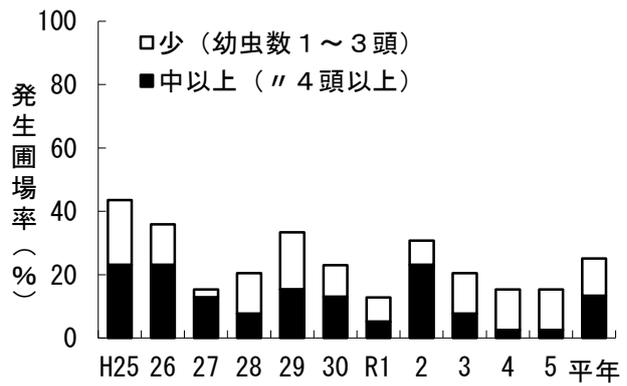
図6 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移（7月下旬、水田畦畔すくい取り、往復20回振）

6 フタオビコヤガ（イネアオムシ）

- (1) 7月の本田すくい取り調査（39圃場）における第2世代幼虫の発生圃場率は、7月上旬は15.4%（平年14.9%）で平年並、7月下旬は15.4%（平年25.1%）で平年より低かった（図7）。



7月上旬



7月下旬

図7 フタオビコヤガ（イネアオムシ）幼虫の発生圃場率の年次推移（7月上下旬、本田すくい取り、往復20回振）

7 ウンカ類

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、セジロウンカの発生圃場率は20.5% (平年0.8%)、ヒメトビウンカの発生圃場率は15.4% (平年3.6%) であり、ともに平年より高かったが、発生程度の高い圃場は確認されなかった (図8)。

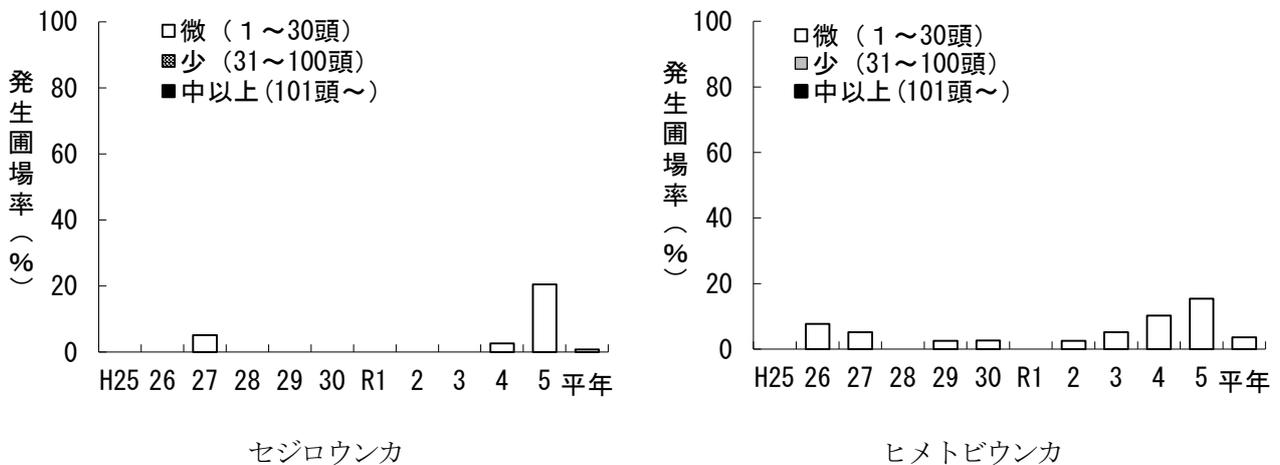


図8 ウンカ類の発生圃場率の年次推移
(7月下旬、本田すくい取り、往復20回振)

8 コバネイナゴ

(1) 7月の本田すくい取り調査での発生圃場率は、7月上旬は59.0% (平年66.7%)、7月下旬は71.8% (平年76.7%) とともに平年並だった (図9)。

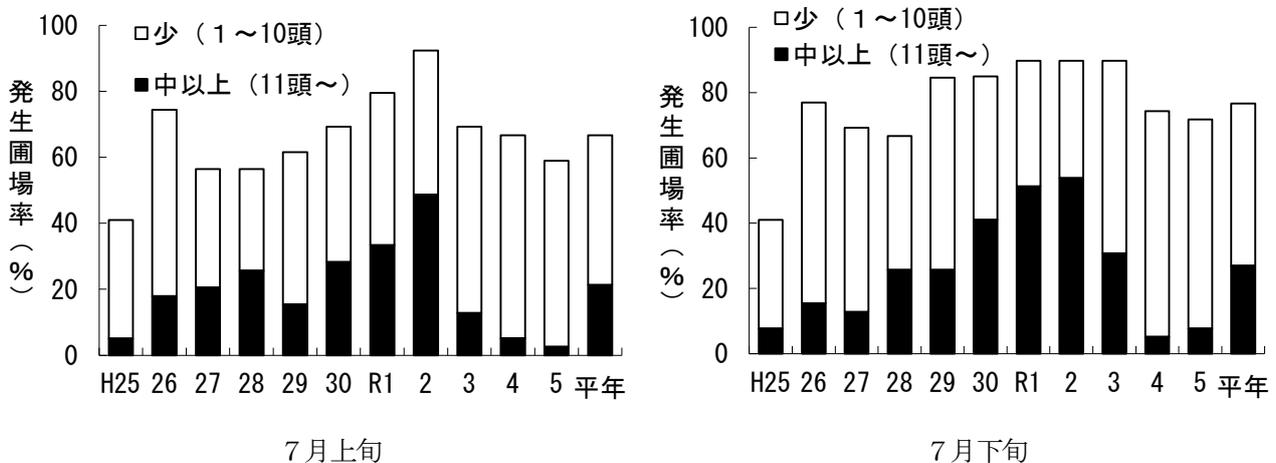


図9 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移
(7月上旬、本田すくい取り、往復20回振)

9 ツマグロヨコバイ

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、平年同様に発生は確認されなかった (データ省略)。

農作物病害虫発生現況情報（7月） りんご編

1 斑点落葉病

- (1) 基準圃場（北上市成田、スターキングデリシヤス、無防除）では、初発生は6月第1半旬であった。新梢葉では6月第3半旬から第4半旬にかけて急増し、6月第6半旬から7月第2半旬にかけて増加した（図1）。
- (2) 7月後半の巡回調査でのふじでの発生園地率は64.5%（平年44.5%）で平年より高かった（図2）。

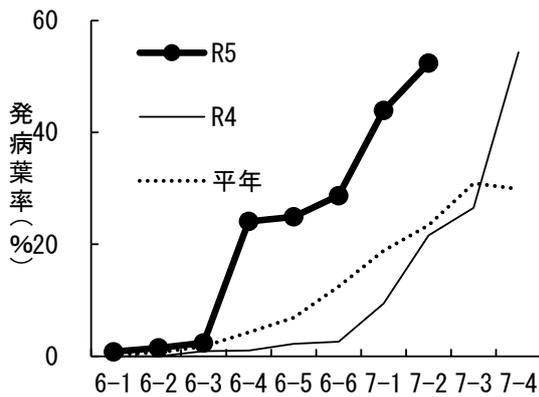


図1 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移
（月-半旬、スターキングデリシヤス、新梢葉）

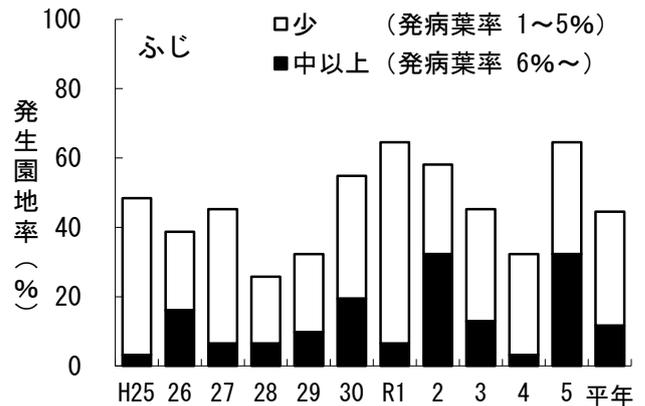


図2 斑点落葉病の発生園地率の年次推移
（ふじ、7月後半、徒長枝上位10葉）

2 黒星病

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生園地率は25.8%（平年10.0%）で平年よりやや高かった（図3）。
- (2) 地域別では、県中部で発生が確認された（図4）。

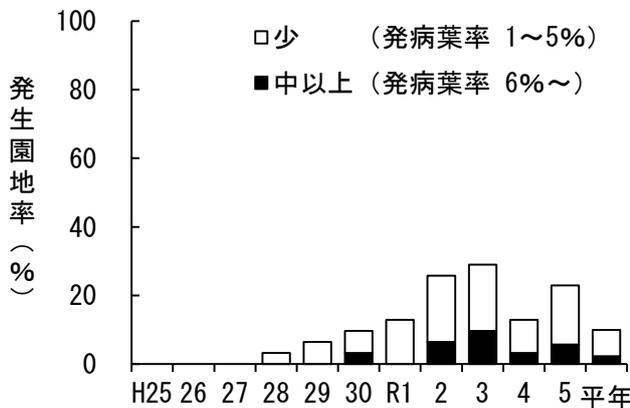


図3 黒星病の発生園地率の年次推移
（7月後半、徒長枝葉）

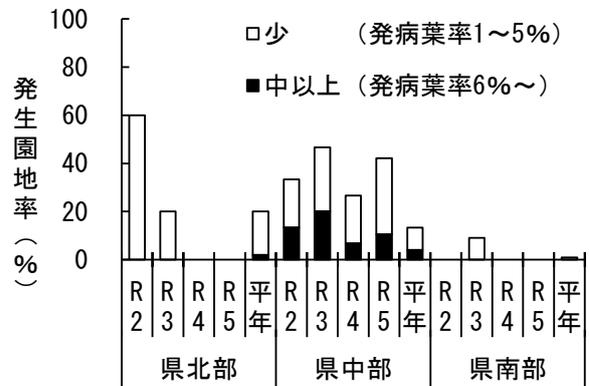


図4 黒星病の地域別発生園地率
（7月後半、徒長枝葉）

3 褐斑病

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生園地率は35.5%（平年8.1%）で平年より高かった（図5）。
- (2) 地域別では、県中部及び県南部で発生が確認された（図6）。

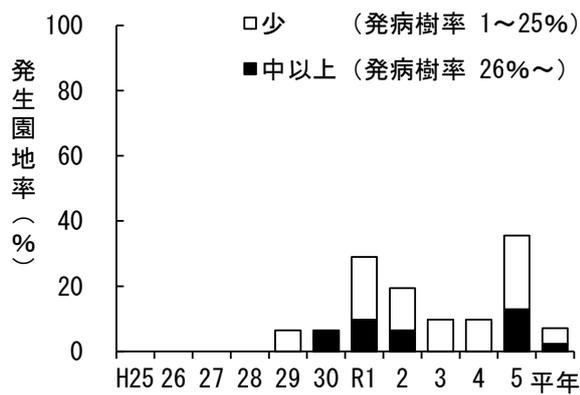


図5 褐斑病の発生園地率の年次推移 (7月後半)

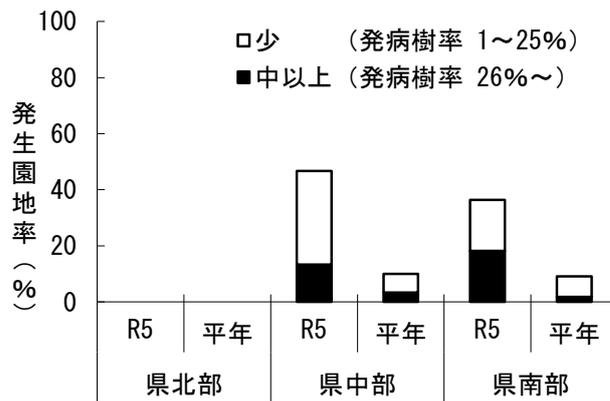


図6 褐斑病の地域別発生園地率 (7月後半)

4 キンモンホソガ

(1) 7月後半の巡回調査でのキンモンホソガ第2世代の発生園地率は19.4% (平年5.8%) で、平年より高かった (図7)。

5 ギンモンハモグリガ

(1) 7月後半の巡回調査でのギンモンハモグリガ第3世代の発生は確認されなかった (平年14.2%、図8)。

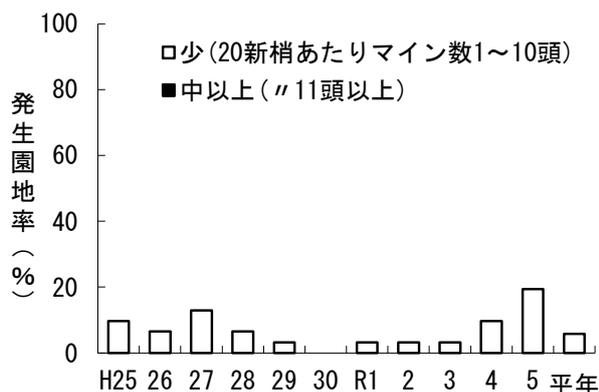


図7 キンモンホソガ第2世代の発生園地率の年次推移 (7月後半)

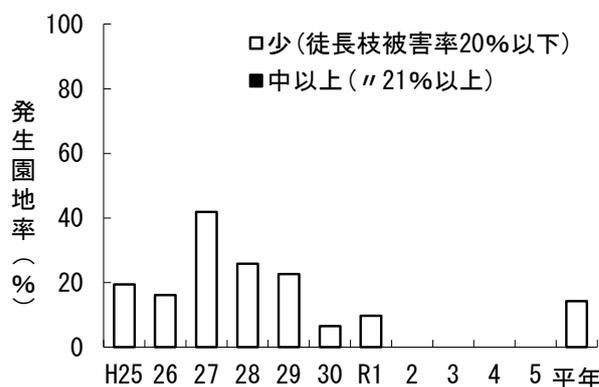


図8 ギンモンハモグリガ第3世代の発生園地率の年次推移 (7月後半)

6 リンゴハダニ

(1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は48.4% (平年22.9%)、発生程度が中以上の園地は16.1% (平年6.5%) で、ともに平年より高かった (図9)。

(2) 地域別では、発生程度の中以上の園地率は、県北部及び県中部で平年より高かった (図10)。

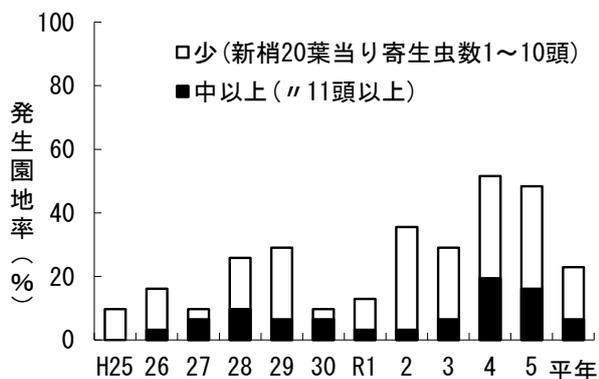


図9 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (7月後半)

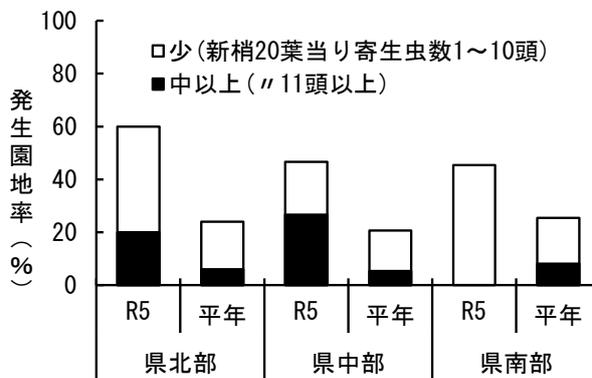


図10 リンゴハダニの地域別発生園地率 (7月後半)

7 ナミハダニ

- (1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は41.9% (平年39.1%) で、平年並であった。また、発生程度が中以上は22.6% (平年13.7%) で、平年よりやや高かった (図11)。
- (2) 地域別では、発生程度の中以上の園地率は、県北部及び県中部で平年より高かった (図12)。

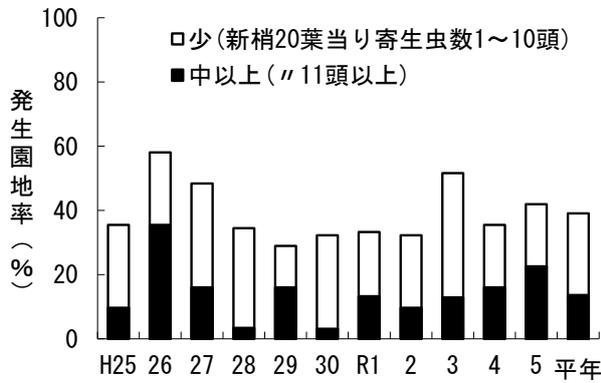


図11 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (7月後半)

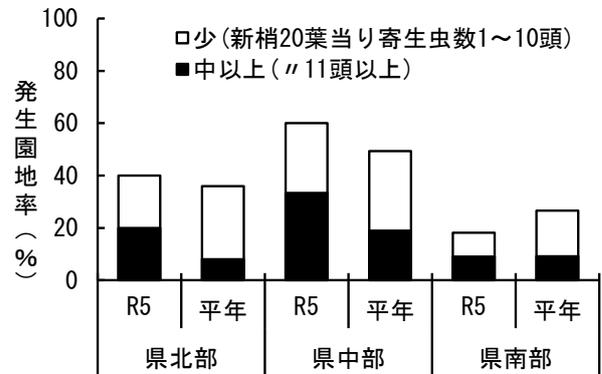


図12 ナミハダニの地域別発生園地率 (7月後半)

8 シンクイムシ類

- (1) 7月後半の巡回調査でのシンクイムシ類の被害果率は6.5% (平年0.3%) であった (図13)。

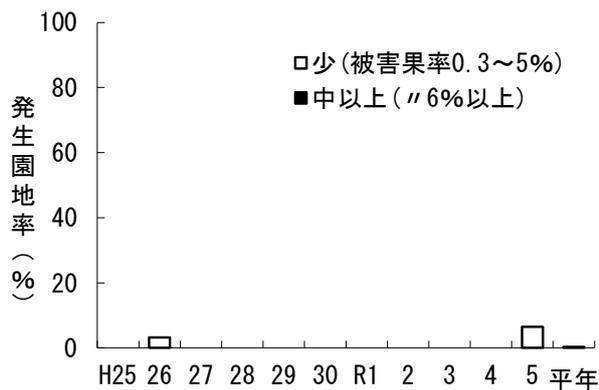


図13 シンクイムシ類の発生園地率の年次推移 (7月後半)

9 果樹カメムシ類

- (1) 7月後半の巡回調査での被害果発生園地率は22.6%（平年31.0%）で、平年並だった（図14）。
- (2) 被害果の時期別発生園地率は、7月後半に発生程度中以上の園地率が増加した（図15）。
- (3) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃場（北上市成田：無防除）では、7月第1半旬以降、平年より低く推移したが、7月第5半旬にやや多く誘殺された。現地園地（盛岡市川目）の誘殺数は、7月第2半旬まで平年並に推移していたが、7月第3半旬に急増した（図16）。
- (4) 予察灯へのクサギカメムシの誘殺数は、平年並に推移している（図17）。

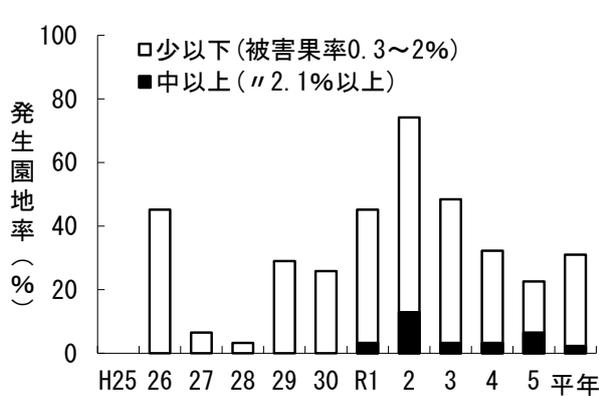


図14 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移（7月後半、ふじ）

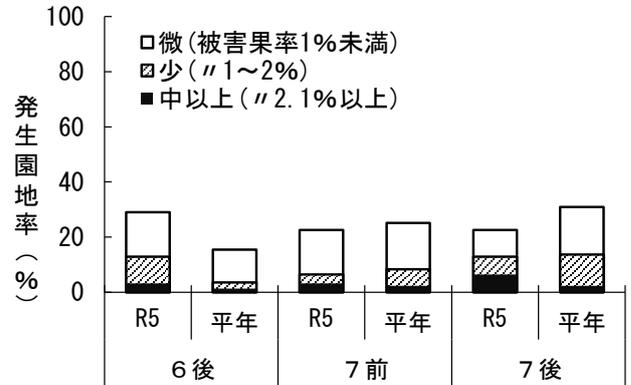


図15 果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率の推移（ふじ）

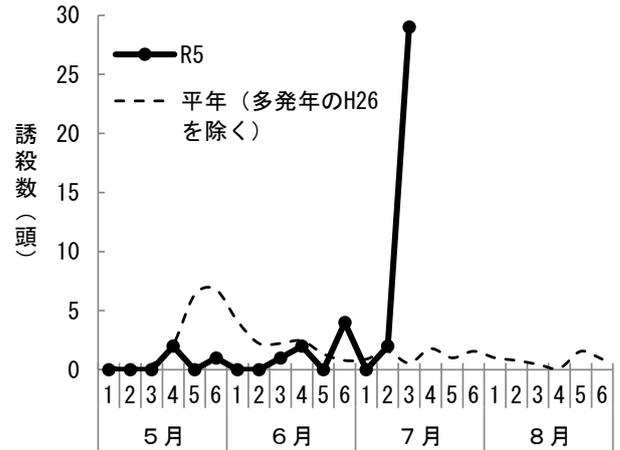
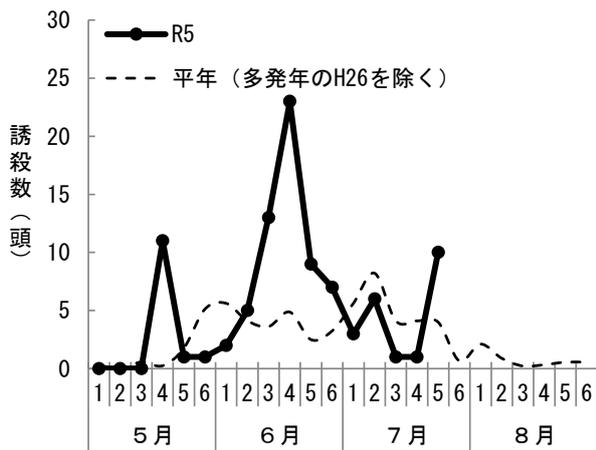
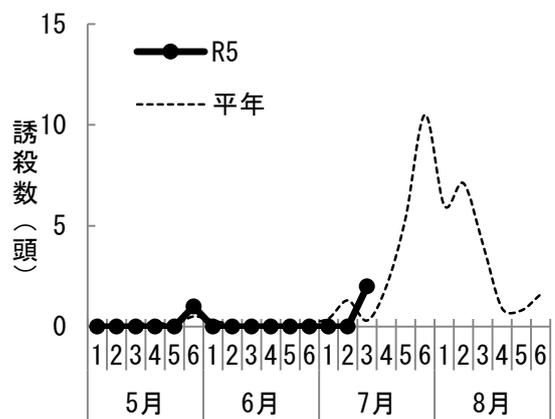
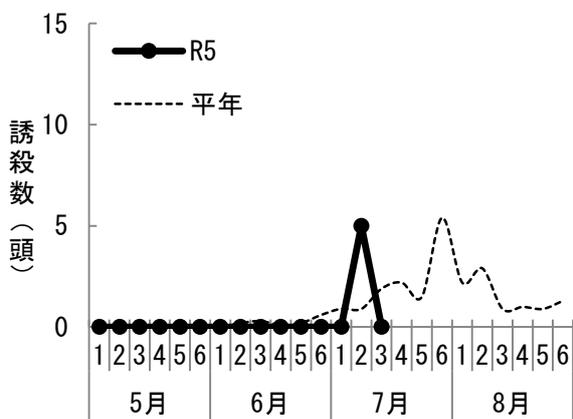


図16 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況（左：基準圃場（北上市成田）、右：盛岡市川目）



農作物病害虫発生現況情報（7月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 7月下旬の巡回調査での発生圃場率は61.5%（平年31.5%）で、平年より高かった（図1）。

2 うどんこ病

(1) 7月下旬の巡回調査での発生圃場率は15.4%（平年6.9%）で、平年よりやや高かった（図2）。

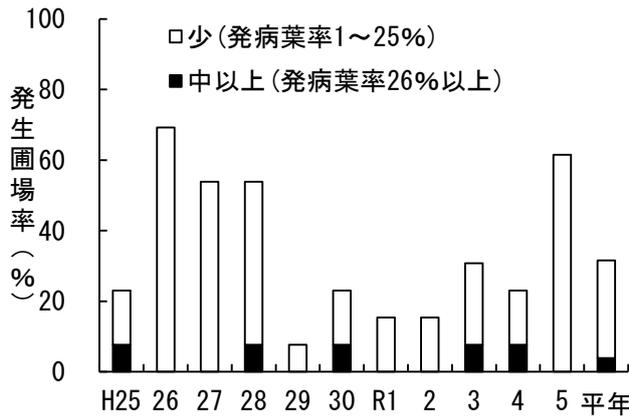


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

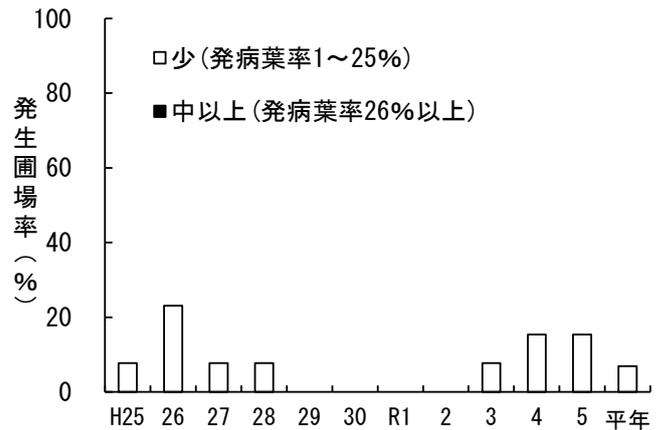


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

3 斑点細菌病

(1) 7月下旬の巡回調査での発生圃場率は53.8%（平年26.9%）で、平年より高かった（図3）。

4 黒星病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年9.2%、図4）。

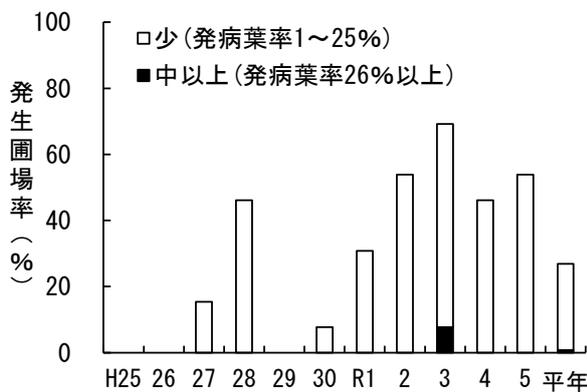


図3 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

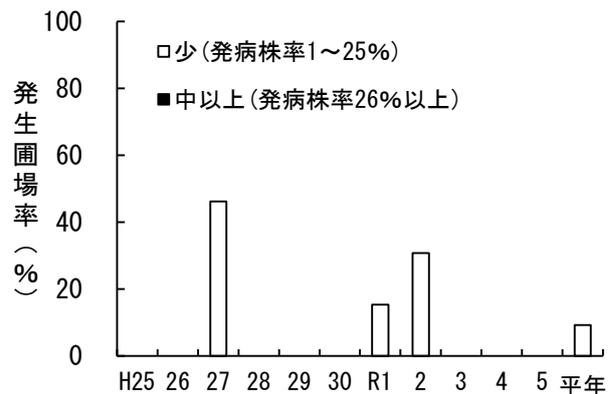


図4 黒星病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

5 褐斑病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった(平年23.1%、図5)。

6 炭疽病

(1) 7月下旬の巡回調査での発生圃場率は53.8%(平年32.3%)で、平年より高かった。(図6)。

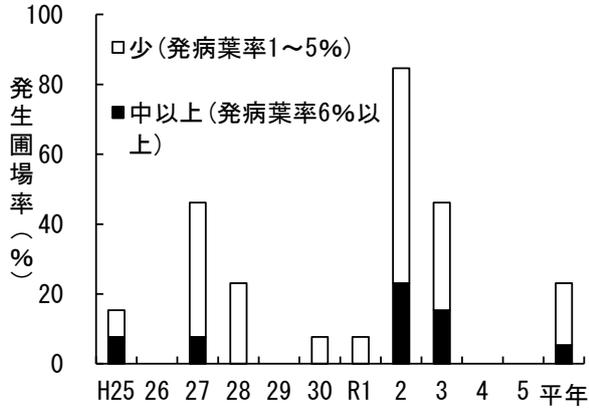


図5 褐斑病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

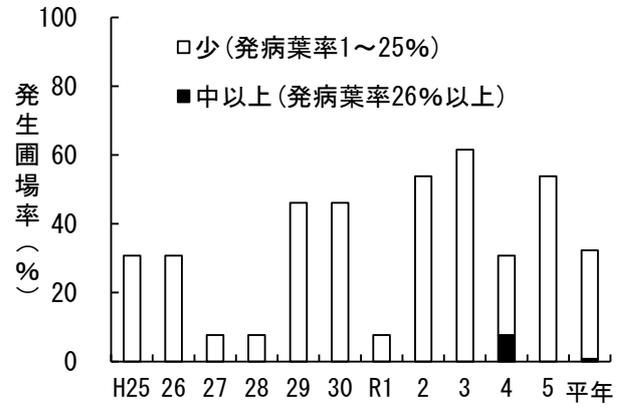


図6 炭疽病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

7 ワタアブラムシ

(1) 7月下旬の巡回調査での発生圃場率は7.7%(平年17.7%)で、平年より低かった(図7)。

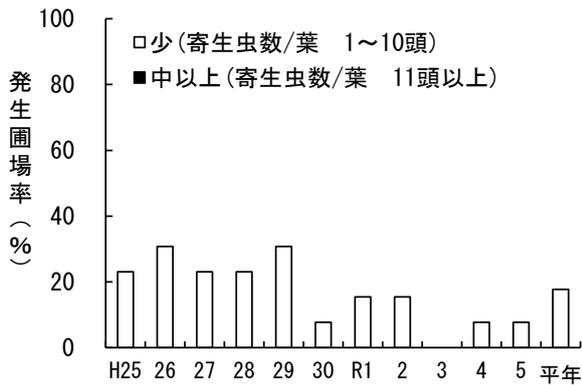


図7 ワタアブラムシの発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（7月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりも少なく推移した（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりも少なく推移した（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりも少なく推移した（図3）。
- (4) 7月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は10.0%（平年33.4%、図4）で平年よりも少なく、幼虫の発生は確認されなかった（幼虫発生圃場率：平年34.1%、図5）。

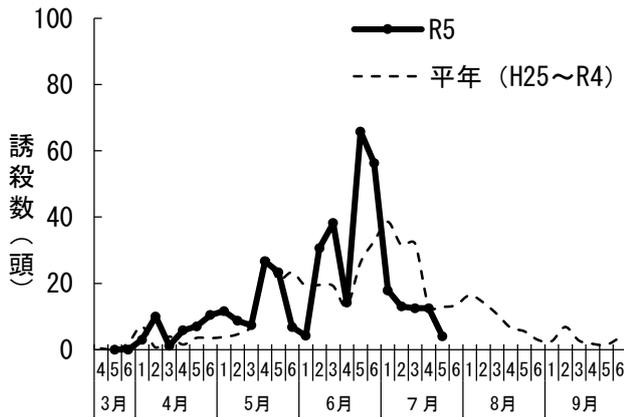


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

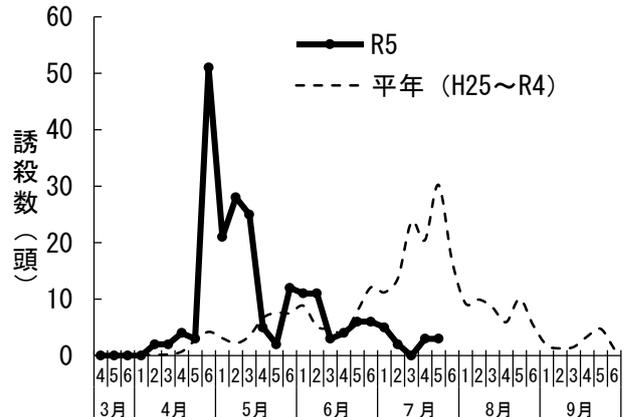


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

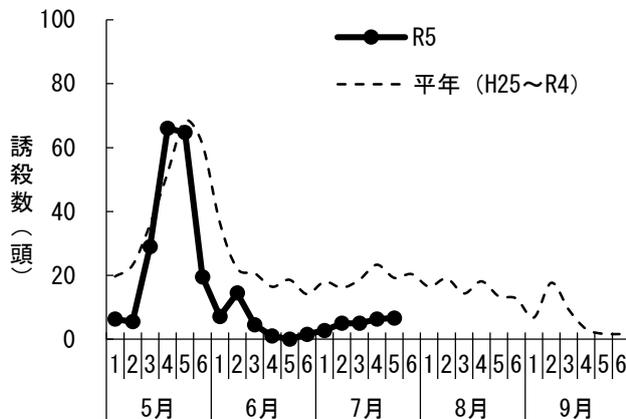


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

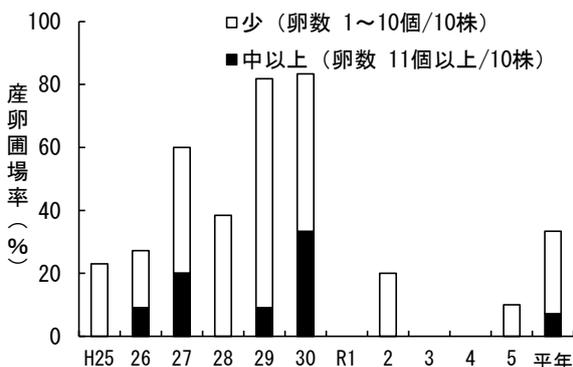


図4 コナガ産卵圃場率の年次推移（7月中旬）

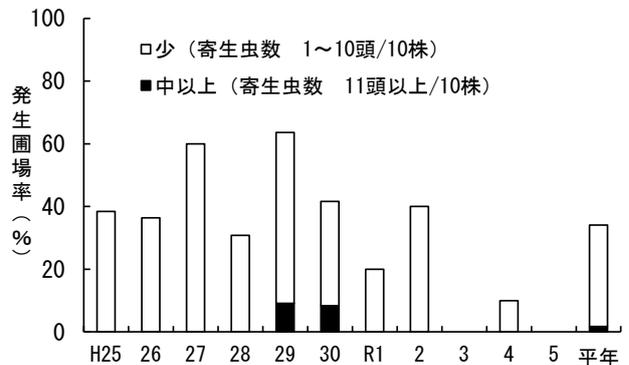


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（7月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺は、7月第4半旬に確認された（図6）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、7月第2半旬に確認された（図7）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺は、6月第6半旬をピークに減少し、7月第3半旬以降は確認されていない（図8）。
- (4) 7月中旬の巡回調査では、産卵は確認されなかった（平年4.5%、図9）。

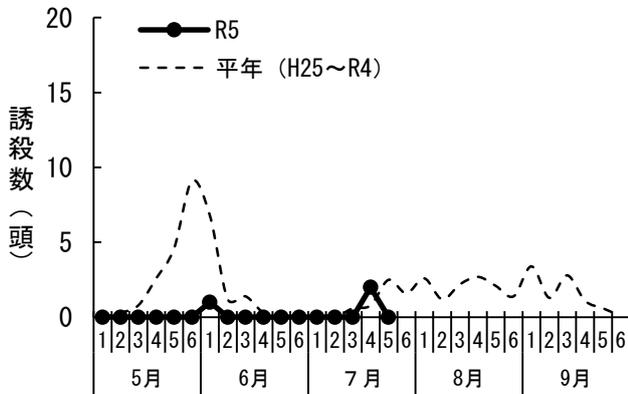


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガの誘殺状況

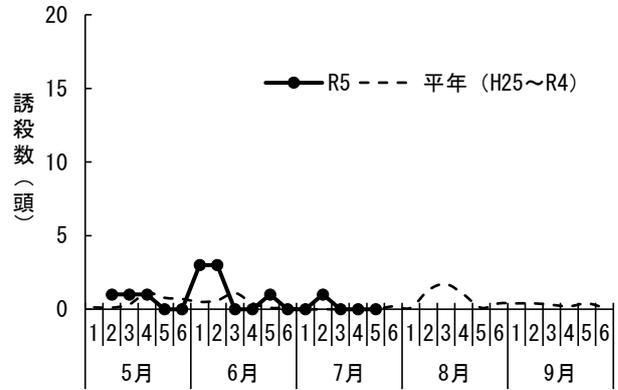


図7 軽米町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

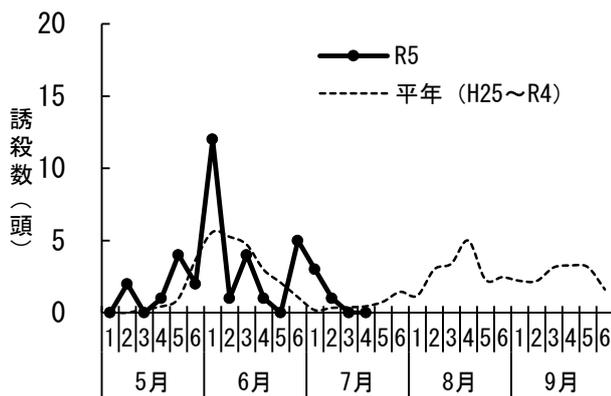


図8 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

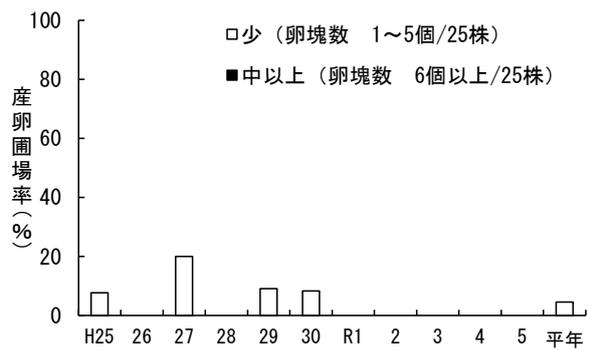


図9 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（7月中旬）

3 タマナギンウワバ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多く推移した（図10）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、7月第4半旬に大きく増加した（図11）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりも多く推移した（図12）。
- (4) 7月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は80.0%（平年19.1%）で、平年より高かった（図13）。

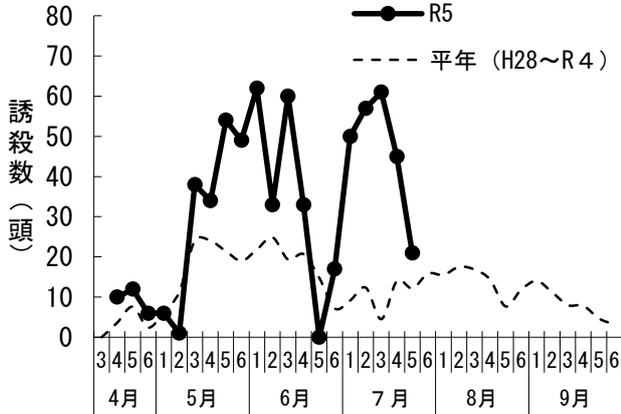


図10 基準圃場（北上市成田）におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

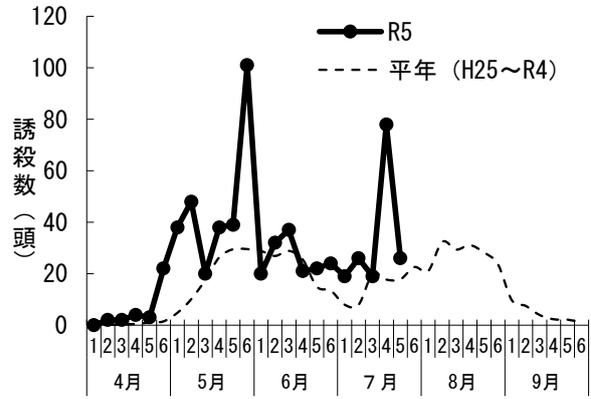


図11 軽米町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

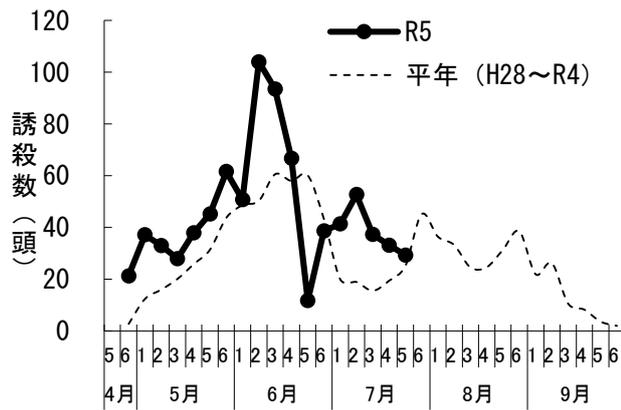


図12 岩手町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

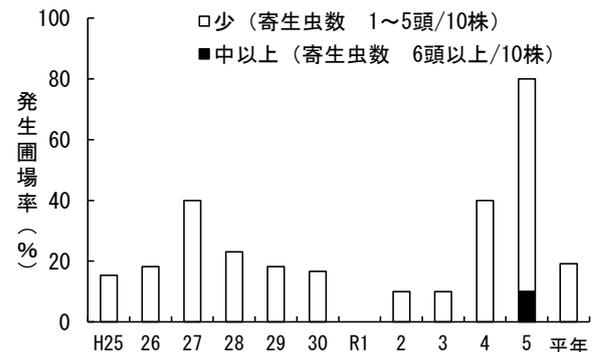


図13 ウワバ類幼虫発生圃場率の年次推移（7月中旬）

4 モンシロチョウ

- (1) 7月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は60.0%（平年29.2%）で、平年より高かった（図14）。
- (2) 幼虫の発生は、適期防除が行われている圃場では少なかった。

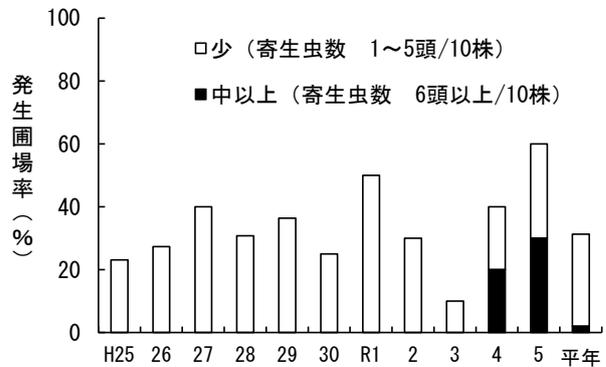


図14 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移（7月中旬）

農作物病害虫発生現況情報（7月） ねぎ編

1 さび病

(1) 7月上旬の巡回調査では、発生圃場率は70.0%（平年22.0%）であり、平年より高かった（図1）。

(2) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は40.0%（平年34.0%）であり、平年よりやや高かった（図2）。

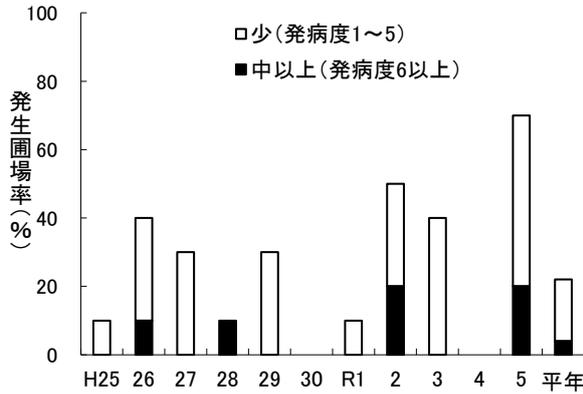


図1 さび病の発生圃場率の年次推移（7月上旬）

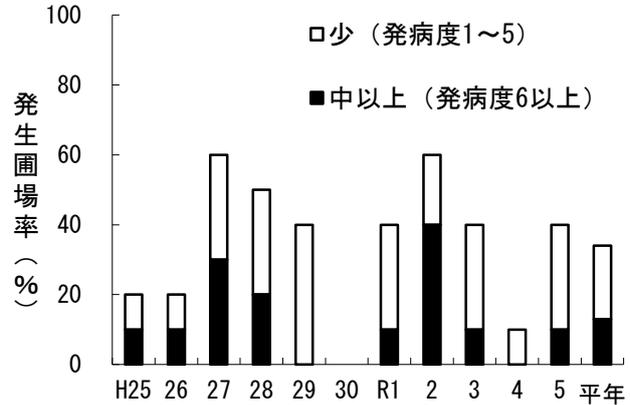


図2 さび病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

2 べと病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年17.0%、図3）。

(2) 巡回調査地点以外の圃場では発生が確認されている（各農業改良普及センターからの報告より）。

3 黒斑病・葉枯病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は50.0%（平年39.0%）であり、平年よりやや高かった（図4）。

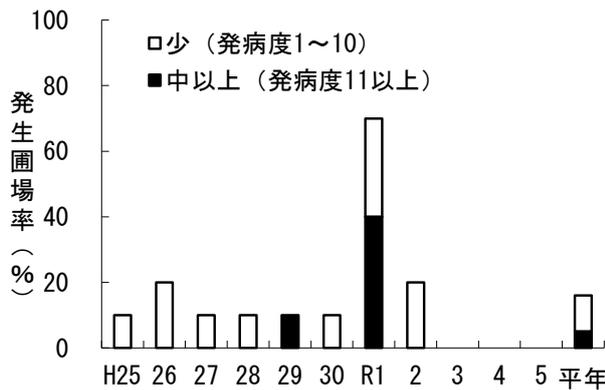


図3 べと病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

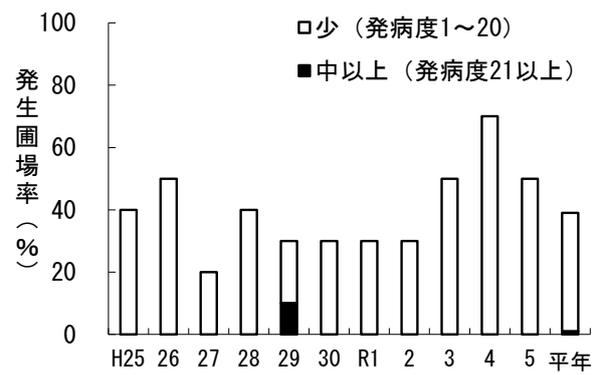


図4 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移（7月下旬）

4 ネギコガ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年 32.0%）（図5）。

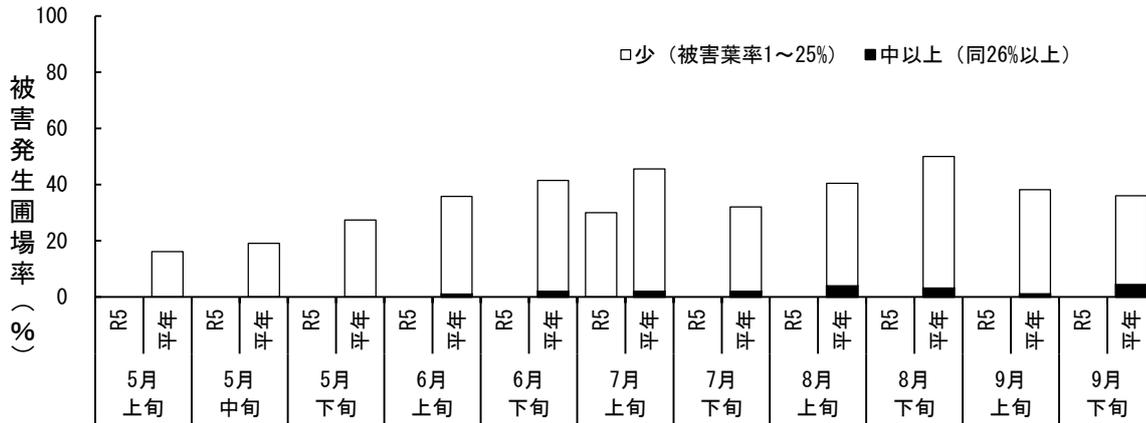


図5 ネギコガの発生圃場率の時期別推移

5 ネギハモグリバエ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は40.0%（平年 62.8%）で平年より低く、被害程度中以上の圃場は確認されなかった（平年 20.4%）（図6）。

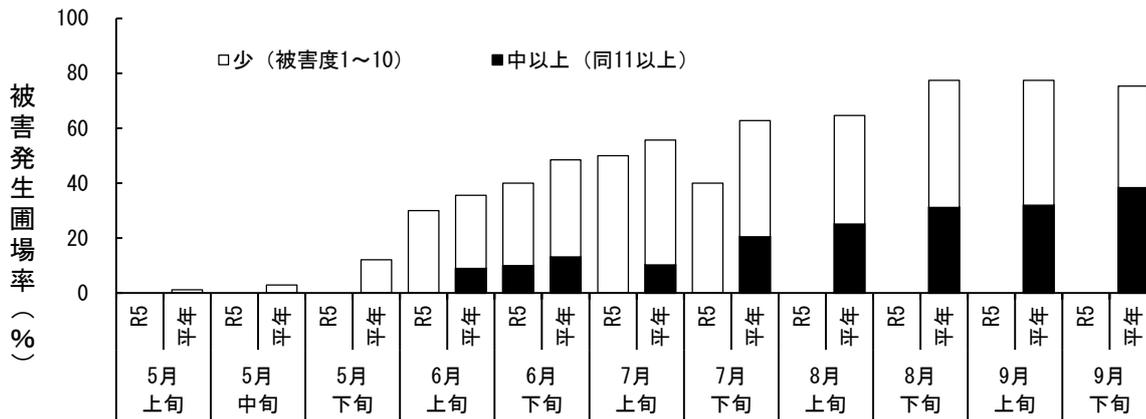


図6 ネギハモグリバエの発生圃場率の時期別推移

6 ネギアザミウマ

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は80.0%（平年 93.8%）、被害程度中以上の圃場率は30.0%（平年 50.8%）であり、ともに平年よりやや低かった（図7）。

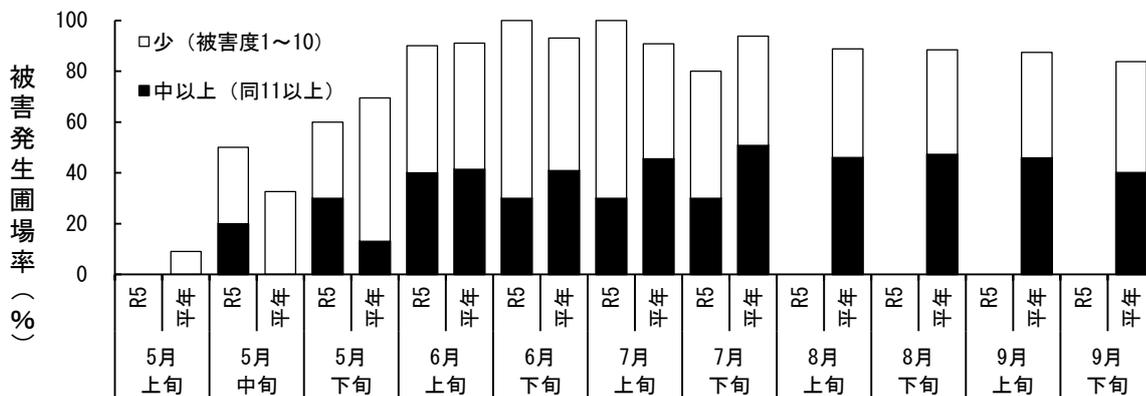


図7 ネギアザミウマの発生圃場率の時期別推移

農作物病害虫発生現況情報（7月）りんどう編

1 葉枯病

- (1) 7月下旬の巡回調査での発生圃場率は53.8%（平年24.6%）で平年より高かったが、多くの圃場では下位葉での発生にとどまっている（図1左）。
- (2) 採花部での発生圃場率は15.4%（平年2.1%）で平年より高く、発生程度の高い圃場もあった（図1右）。

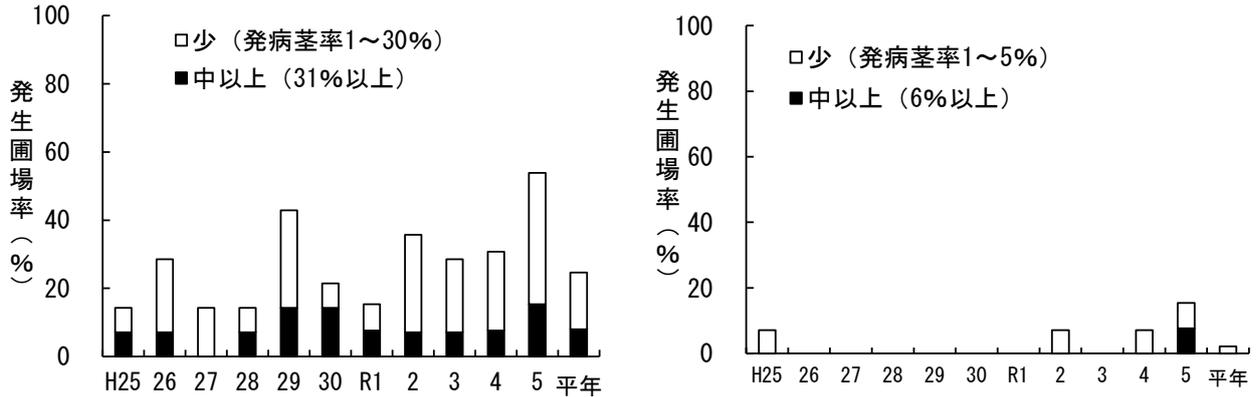


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（左：株全体、右：採花部、7月下旬）

2 褐斑病

- (1) 7月下旬の巡回調査では、1圃場で発生が確認された（発生圃場率7.7%、平年0%、図省略）。また、1圃場の区外でも発生が確認された。
- (2) 7月下旬の巡回調査で発生が確認されたのはいずれも前年の多発圃場だった。なお、この時期に発生が確認されたのは平成12年の調査開始以来初めてである。

3 ハダニ類

- (1) 7月下旬の巡回調査での発生圃場率は15.4%（平年24.5%）で、平年よりやや低かった（図2左）。
- (2) 寄生虫数の多い圃場率（寄生虫数：101頭以上/80葉中）は7.7%（平年1.4%）で、平年よりも高かった（図2右）。

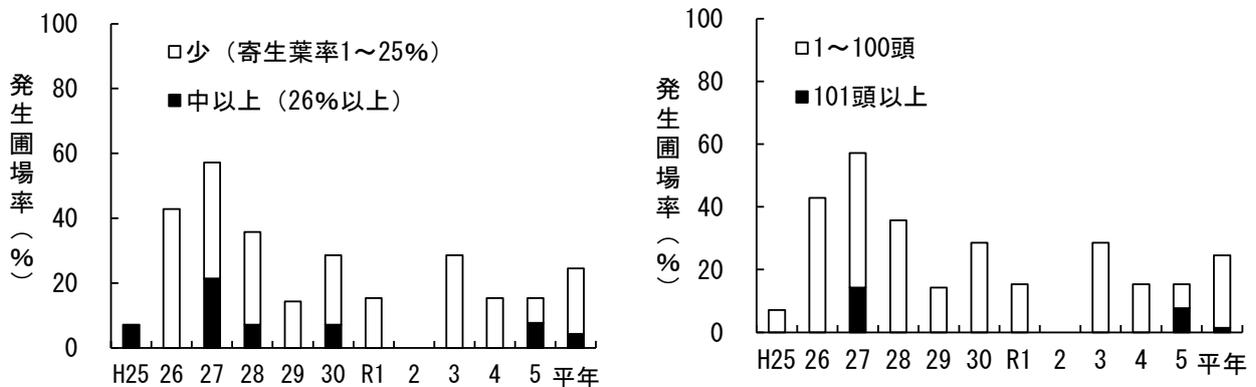


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移（左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉中、7月下旬）

4 リンドウホソハマキ

- (1) 7月下旬の巡回調査での潜葉痕の被害発生圃場率は7.7% (平年23.7%) で平年より低かった (図3左)。
- (2) 生長部および茎部の被害は確認されなかった (平年15.1%、図3右)。

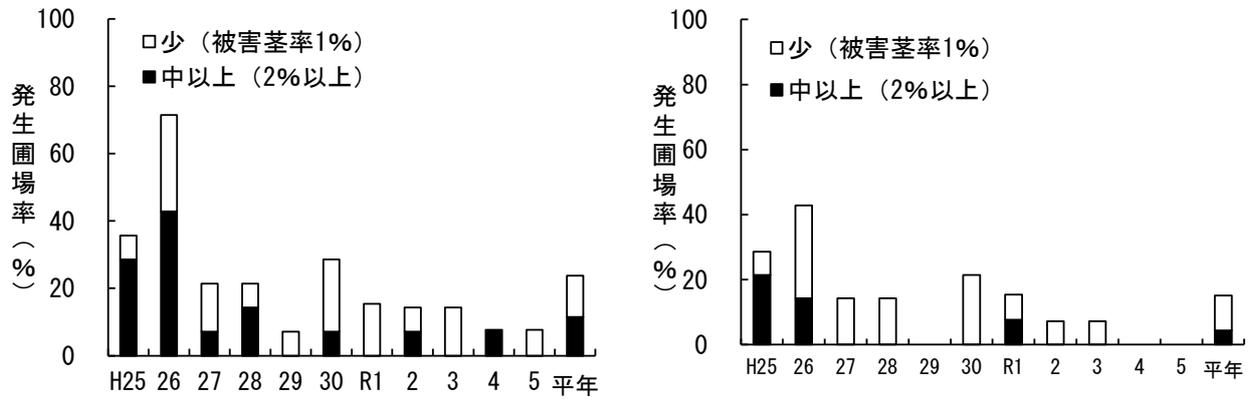


図3 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移 (左：潜葉痕、右：生長部・茎部、7月下旬)